

# れきしみち

2023.1  
No.127



P2  
特集

P4… 連載 大河ドラマ「どうする家康」にむけて  
「安城譜代調査速報－酒井左衛門尉家－」調査報告

P6… 連載「安城歴史散策  
風を感じて歴史を歩く13」

P7… 安城歴博・中京大学連携講座  
第12回松平シンポジウム  
令和4年度博物館実習報告

P8… 特別展「家康と一向一揆」催し物のご案内  
市民ギャラリーよりお知らせ

ANJO CITY MUSEUM OF HISTORY  
安城市歴史博物館

1.毛利軍黄旗組(広島県竹原市長善寺蔵) 2.血判阿弥陀如来絵像(部分)(半田市浄願寺蔵) 3.『石山軍記』(部分)(本館蔵)

れきしみち No.127 令和5年1月発行 編集・発行 安城市歴史博物館

(指定管理者:安祥文化のさと地域運営共同体)

安城市歴史博物館 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地 TEL:0566-77-6655

## 特別展 家康と一向一揆 催し物のご案内

お問合せ・お申込み 安城市歴史博物館 TEL:0566-77-6655

**記念講演会**  
「戦国時代の本願寺と三河」  
[日時] 令和5年2月5日(日)14:00～  
[定員] 40名(先着順)  
[参加費] 無料  
[講師] 草野顕之氏(大谷大学名誉教授)  
申込 1月15日(日)9:00～電話受付

**記念講演会**  
「家康の大化と本願寺門徒待」  
[日時] 令和5年2月18日(土)14:00～  
[定員] 40名(先着順)  
[参加費] 無料  
[講師] 村岡幹生氏(中京大学名誉教授)  
申込 1月28日(土)9:00～電話受付

**歴博講座**  
「家康領国退去中の真宗寺院」  
[日時] 令和5年3月4日(土)14:00～  
[定員] 40名(先着順)  
[参加費] 無料  
[講師] 三島一信(本館学芸員)  
申込 2月11日(土)9:00～電話受付

### 関連イベント

**「松平氏ゆかりの大乗寺で写経体験」**  
家康は晩年、自らの信仰を示し、南無阿弥陀仏の名号六文字を六段に記したと伝えられています。家康の祖先の位牌がある大乗寺にて、写経体験をおこないます。  
[日時] 令和5年2月19日(日)14:00～16:00  
[場所] 安祥山 大乗寺  
[定員] 15名(先着順)  
[参加費] 500円  
申込 1月29日(日)9:00～電話受付



**「家康と一向一揆検定」**  
特別展「家康と一向一揆」の展示内容にあわせ、博物館オリジナルの一向一揆検定を開催します。受検後、出題した問題の解説をおこないます。家康の三大危機の1つにあげられる一向一揆の内容をどこまで知っているか、チャレンジしてみませんか。  
[日時] 令和5年3月12日(日)13:00～  
[場所] 歴史博物館 講座室  
[定員] 40名  
[参加費] 500円  
[その他] 検定は特別展「家康と一向一揆」図録より出題  
申込 イベント名、氏名、郵便番号、住所、電話番号を明記し、往復はがきにて安城市歴史博物館までお送りください(2月10日(金)必着)。はがき1枚につき1名の申込受付となります。定員を超えた場合は抽選。定員に満たない場合は、2月12日以降にお電話にて受付いたします。



**「歴博福よせ雛」**  
特別展「家康と一向一揆」にちなんで福よせ雛を開催します。一向宗の坊主衆と家康方の武士たちを雛が演じ、三河一向一揆の様子を紹介します。  
[期間] 令和5年2月4日(土)～3月19日(日)  
申込 1月29日(日)9:00～電話受付



**「和モノフェス」**  
安城松平家四代の松平清康と徳川家康をテーマにした殺陣ショー、和のテーマに合わせた雑貨などのマルシェ、和にちなんで催しを開催します。  
[日時] 令和5年3月11日(土)10:00～15:00  
[場所] 安祥城址公園  
申込 イベント名、氏名、郵便番号、住所、電話番号を明記し、往復はがきにて安城市歴史博物館までお送りください(2月10日(金)必着)。はがき1枚につき1名の申込受付となります。定員を超えた場合は抽選。定員に満たない場合は、2月12日以降にお電話にて受付いたします。



※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定員数・開催方法や日時・内容等を変更する場合がありますので、最新情報はHPにてご確認ください。

### 安城市民ギャラリーよりお知らせ

安城市制施行70周年記念特別展  
「砺波市・安城市交流美術展－砺波市美術館所蔵作品より－」



藤森兼明「アドレージョン・デミトリオス」  
砺波市美術館所蔵



高瀬孝信「戴金飾箱 花の城閣」  
砺波市美術館所蔵

市制施行70周年を記念して砺波市・安城市交流美術展を開催します。砺波市・安城市で現在ご活躍されている作家の作品を展示するほか、砺波市美術館のご協力により絵画、工芸、書、写真など貴重な所蔵作品の数々を一堂に集め、初めて市民ギャラリーにて展示いたします。雄大な景色と豊かな自然に育まれた砺波の地で花開いた文化芸術をぜひご堪能ください。  
[開催期間] 令和5年1月28日(土)～2月26日(日)  
[時間] 9:00～17:00(※入館は16:30まで)  
※1月28日(土)は開会式のため14:00からの観覧となります。  
[会場] 市民ギャラリー  
[観覧料] 300円(中学生以下無料)

### 安祥文化のさと

「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

[全館共通事項]  
住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地  
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

安城市歴史博物館 開館時間 / 9:00～17:00  
TEL:0566-77-6655 FAX:0566-77-6600

安城市民ギャラリー 開館時間 / 9:00～17:00  
TEL:0566-77-6853 FAX:0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター 開館時間 / 9:00～17:00  
TEL:0566-77-4477 FAX:0566-77-6600

安祥公民館 開館時間 / 9:00～21:00  
TEL:0566-77-5070 FAX:0566-77-6062

公式HP、SNSもご覧ください

安城市歴史博物館 URL / https://ansyobunka.jp/

# 家康と一向一揆

令和5年  
2/4(土) - 3/19(日)

観覧料 | 500円※中学生以下無料  
※団体(20名様以上:400円)

『石山軍記』(部分)(本館蔵)

愛知県全体が徳川家康に関心を寄せている今日のごろ、安城は家康の源流である安城松平家発祥の地と自負していることから、今年はその地域の戦国・織豊期の松平・徳川氏に関連する歴史の展示を予定しています。今回はその第一弾とし、徳川家康の生涯の中で三大危機といわれるうち、最初の危機「三河一向一揆」を題材とした展示を開催します。

## 三州下一向一揆起さる

さて、今回の展示ですが、三河一向一揆の主な争いの場は矢作川下流域の安城市・岡崎市・幸田町・西尾市など西三河南部でした。一五世紀中頃から、家康の旧姓松平一族がこの地に勢力を拡大していきます。それとほぼ同じ時期に浄土真宗本願寺派(当時)も中興の蓮如によって教線を拡大し、それぞれの真宗寺院は多くの門徒を抱えていました。この時期の本願寺派と松平一族との関係は不明ですが、家康の家臣に多くの本願寺派の門徒がいることから、両者の関係は決して悪くはなかったと

思われます。

ただ、桶狭間の戦い後、家康は岡崎を拠点に西三河を制圧していく中で、戦に必要な兵糧や金銭などが不足し、その徴収を寺院内で行使、あるいは寺内に馬で乱入して米穀を踏み散らかすなど不当な行いをしました。これらの不満が爆発、本願寺派寺院が寺内特権の保持を主張したことから一向一揆が始まったといわれています。その中で家康配下の門徒武士、または門徒侍といわれる者達が多く一揆方に与しました。当時土井城(岡崎市土井町)を守る本多広孝の同地の配下の者の中には一揆方につく者もいて、戦いは混戦の様相を呈していたと考えられます。争いは永禄六年の暮れから翌七年(一五六三〜一六四)の二月の間で、他の一向一揆とは違い短期間に終結しました。一揆方は旗や兜に「進者往生極楽、退者无限地獄」、



1.御吉例御旗印(岡崎市大樹寺蔵)

あるいは「南無阿弥陀仏」の文字を掲げ、対して家康方に属した大樹寺率いる浄土宗方が「厭離穢土 欣求浄土」(写真1)をこの時旗印としたとする後世の記録があります。和睦では家康は和睦内容を反故にして、寺院に改宗を勧めたり、境内の保障を認めなかったり、ついには寺院の領内退去を命じました。要因は一揆発端時の借銭・借米に関連して、一揆方の債権破棄を家康が求めたところ、寺院が拒否したため退去となったとされる考えも出ています。

一向一揆の戦後処理と国衆の反乱に勝利した家康は三河一国の支配(奥三河の一部を除く)を順調に進め、戦国大名の仲間入りを果たしました。



2.血判阿弥陀如来絵像(半田市浄願寺蔵)

## 寺院の退去中の活動

家康の領内から退去させられた寺院・道場の坊主らは、はじめ信濃国や駿河国などへ向かったと各寺院の由緒書に多く見られます。後に伊勢長島の一向一揆に加わったり、または石山本願寺で織田信長と戦ったことが記されています。上宮寺(岡崎市上佐々木町)の勝祐・信祐は長島一向一揆に参加し、天正二年(一五七四)九月、戦いに破れた後に刈安賀(一宮市)の専称坊で信長家臣の浅井新八らを介錯人として切腹したとされます。二人の死を悼み本山の石山本願寺宗主顕如は勝祐・信祐絵像を作成し、信祐の子尊祐に与えました。三河本願寺派寺院ら(浄土真宗本願寺派寺・道場のまとまり)は、退去後も門徒との関係がなくなることはなく、資金援助などを得て、信仰を護る一揆の活動に加わっていたと思われれます。

## 寺院の赦免と混乱

天正十一年(一五八三)十二月三十日に家康は領内退去を命じた寺院の還住(家康領内への帰住)を赦しました。ただし、本證寺、勝鬘寺、上宮寺、慈光寺、浄妙寺、



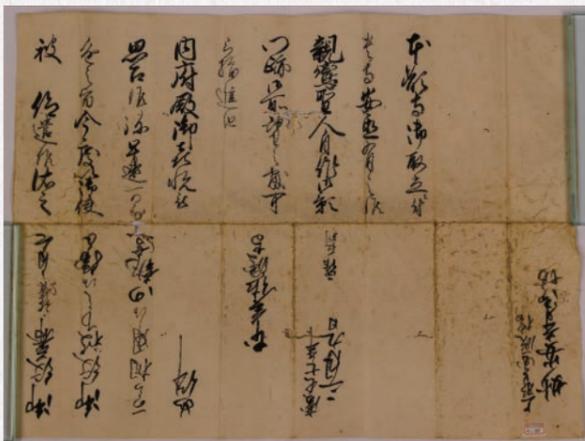
3.妙春尼絵像(岡崎市浄専寺蔵)

願照寺、無量寿寺の七か寺は除外されました。有力寺院であり、三河一向一揆の際にはその中心寺院として激しく戦ったこれら寺院に家康は強い反感を持つていたからとされます。この文書の宛先は、「日向守母方」こと石川家成の母妙春尼(妙西尼、写真3)とあります。妙春尼は家康の母於大の方の姉にあたり、石川忠成(清兼)の室で、熱心な門徒でした。有力門徒の石川家の室という立場もあり、三河本願寺教団と家康との間の仲介として動いていました。しかし、その後も上宮寺、勝鬘寺、本證寺等と家康との間で様々な食い違いが発生し、これら七か寺が赦免されるのは、二年後の天正十三年十月のことでした。家康はなぜ赦免したのか、その理由は当時の史料から解明することができませんが、三河一向一揆を記した後世の諸書などにも記載がありません。しかし当時の状況から、家康は豊臣秀吉と対立しており、その対抗上、本願寺と和睦して還住を赦したと考えられます。これ以降も家康は三河本願寺教団、門徒に対して礼銭要求や京都への材木運搬を命じるなど良好な関係ではありませんでした。

## 東西分派

家康領内から本願寺派寺院等が退去していた時期、本山の石山本願寺では織田信長と元亀元年(一五七〇)から約一〇年間戦いが続いています。天正八年(一五八〇)の和睦後、和睦に反対する強硬派の教如は父顕如と対立します。この時に三河国内の寺院等との関係が築かれたと思われれます。教如は秀吉政権下で文禄元年(一五九二)に宗主となりましたが、一年も満たずに弟の准如にその座を譲ることになりました。そして宗主准如と別に教如を支持する寺院等が明確になっ

ていきます。また教如の独自の活動もみられ、家康との関係を築いていました。関ヶ原の戦いを経て、家康は天下をほぼ手中におさめます。慶長七年(一六〇二)三月、教如に親鸞自作の木像が上野国厩橋(群馬県前橋市)の妙安寺から寄附されました。これは当時内府(大納言の位)家康の依頼によるもので、家康の意志が側近の本多正信から教如に伝えられました(写真4)。家康から与えられた京都の寺地に同八年二月二十八日、木像が宮殿に安置され、ここに東本願寺が成立しました。



4.慶長7年3月9日 本多正信書状写(前橋市妙安寺蔵)

本展示は三河一向一揆が起きた永禄六年(一五六三)から慶長七年の東西分派まで、約四〇年間の家康と本願寺派寺院との関係を対象とする予定です。当地の主要な浄土真宗と天下人家康との歴史をぜひご覧ください。

# 安城譜代調査速報

## — 酒井左衛門尉家 —

### 安城譜代とは

江戸時代、徳川家康の先祖の松平氏惣領家に仕えた譜代のうち、古くから仕えた家を岩津譜代、安城譜代、岡崎譜代として分けたものです。この分類は異なるものもありますが、安城松平家が惣領となった安城城を拠点とした時代、いわゆる安城四代のうち、親忠・長忠(長親)・信忠三代の間に仕えた家とされます。家康の祖父清康以降は山中、岡崎譜代といわれ、譜代大名や多くの旗本となった家のうち、安城譜代は特に最古参の家柄の良さを主張したものとされます。しかし、この分類に入る家も諸説あり、古くから仕えた家を対象とするつもりです。



致道博物館

象となり、情報を収集して調査します。酒井左衛門尉家では忠次とその祖先、家次・忠勝までの事跡を対象とする予定です。

### 酒井左衛門尉家調査 — 致道博物館 —

さて、左衛門尉家の調査ですが、家に関わる資料は山形県鶴岡市にある致道博物館に伝来されています。致道の名称は庄内藩の藩校に由来します。昨年十月に調査をさせていただき、多くの資料を閲覧、撮影することができました。

令和四年度、鶴岡市では酒井忠勝入封四〇〇年を記念し、様々なイベントが行われました。致道博物館では酒井家に関する展示を五回企画し、「徳川四天王筆頭酒井忠次展」「藩祖酒井忠勝展」が開催されました。

忠次に関する館蔵品の資料や三河に残る忠次の古文書の一部等が展示されていました。「徳川四天王筆頭酒井忠次展」では、「酒井忠次肖像」(江戸時代、個人蔵)、「色々威胴丸」(室町時代末期、国重文)、「朱塗黒糸威二枚銅具足」(安土桃山時代、県指定)、「黒塗軍配団扇」(安土桃山時代)、「黒塗交椅」(安土桃山時代)など忠次所用の品々や刀剣類が展



致道博物館での調査撮影風景

令和五年度、安城市歴史博物館では、新たな展示テーマ、三河の戦国・織豊期を対象とした「安城譜代」を設定し、シリーズ化して開催する予定です。そのため現在、譜代の家の資料調査を精力的に進めています。

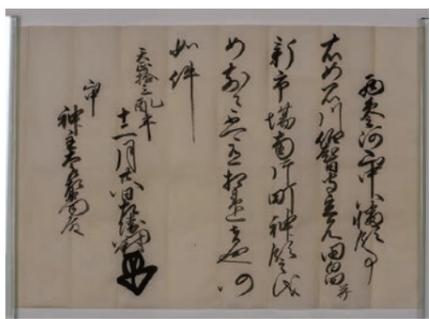
文責：三島一信

### 酒井氏の出自

家康の家臣のうち、筆頭格の人物として酒井忠次が挙げられます。忠次は慶長元年(一五九六)に七〇歳で死去したと伝えられているのを信じて、大永七年(一五二七)生まれとなります。家康の一五歳年長で、家康が三河を制した時期には三四歳、左衛門尉家の棟梁で、家康の祖父清康の妹を妻に持つという家柄の良さともあわせて、家康家の中ではかなりの発言権をもっていたと考えられます。それ以上に家康からは頼りにされていたと考えられ、家康の三河統一では、吉田城主(豊橋市)となつて東三河の支配を任せられ、重臣筆頭として武田や北条との外交にも活躍しました。天正十六年(一五八八)十月に息子家次に家督を譲り、六一歳で隠居、同二十年の家康の関東移封では、京都の桜井屋敷を秀吉から与えられました。

酒井忠次の孫忠勝は元和八年(一六二二)十月に出羽国庄内藩(山形県鶴岡市)に二万八〇〇示されていました。「藩祖酒井忠勝」展では忠勝の庄内入部以前の最上氏の資料も展示され、「酒井忠勝肖像」「忠勝所用紺糸威二枚胴具足」「鶴岡城絵図」や庄内藩入部初期での知行宛行状や家臣募集の資料など、興味をそそる資料が展示されています。庄内藩初期の大きな出来事として肥後熊本藩主加藤忠広(加藤清正の跡継ぎ)の幽閉先となつていて、酒井忠勝が預かっていることもあり、これらの資料も展示されていました。鶴岡の地の豊富な歴史を見て取ることが出来ました。

今回の安城譜代関連調査は、展示品以外のものも対象で、致道博物館所蔵の古文書・古記録類を閲覧・撮影してもらいました。忠次期の永祿から天正年間(一五五八〜一五九二)の書状があり、それ以上に江戸時代以降の藩の資料が大量に保管されています。加えて、「酒井家系図」「御世紀」「大泉叢誌」などの酒井家の事績を考証した編纂物がありました。



天正13年(1585)12月28日 酒井忠次判物写(致道博物館蔵)  
家康が豊臣秀吉と対立している中、天正13年11月に両者の間の取次となっていた石川数正が出奔しました。酒井忠次はその跡始末として山中八幡宮(岡崎市)に数正が認めていた神領を以前と同じように認める判物を出しました。

〇石で移封し、幕末まで転封することなく、当地を支配しました。

酒井氏には酒井忠次と酒井正親(政家)の二系統が大名として江戸時代に続いたため、忠次が仮名の左衛門尉家、正親は雅楽助を名乗っていたことで、雅楽頭(後に官途が上昇したため)家と区別されていました。



鶴岡城跡

今回の展示は家康や三河との関わりを主として、江戸時代初期までの動向を含めた内容にしたいと考えています。

資料が残っているのは、大名の末裔の家や、財団として設立した博物館、また、藩があつた場所の自治体の博物館、藩や大名家と関係深い寺社、資料の収集家などです。大名家の美術品となると、公立・私立の美術館・博物館に分散されて所蔵されていたりして様々です。これらの場所が主な調査対象

### 鶴岡市郷土資料館・ 酒田市立光丘文庫

致道博物館以外にも、鶴岡市には酒井家に関する資料が残されています。その一つは鶴岡市郷土資料館です。当館には市内の文書資料が大量に収集・保管されていますが、その中に庄内藩士の資料もあり、調査対象となりました。「酒井系譜考」や、藩士の先祖から提出者までの事跡を書き上げた「二組先祖書并親類書家内書帳」、「酒井家故地の三河から酒井の諸伝が書かれた」「三州(林弥次右衛門)より来状写」などを調査しました。

鶴岡市に隣接する酒田市には、豪商本間家が収集した古書などを主体とした光丘文庫があります。酒田は山形県の主要な河川最上川の河口に位置し、江戸時代には庄内地方の米が集荷され、西回り航路の主要な湊でした。当文庫には酒井氏に関する資料も残されています。致道博物館の写本「大泉叢志」や、「酒井忠勝公御代分限帳」他「酒井家譜記大全」「酒井家諸史料」などを調査しました。

酒井左衛門尉家に関わる資料は今回調査対象となった三館が主な所ですが、酒井忠次の事跡は三河から遠江にかけて残されています。しかし、次代の家次の資料はあまり知られておらず、記録編纂物で記載されているのみです。ある意味で左衛門尉家の空白期間といえます。家康が秀吉に臣従した以降、大坂両陣に至るまで、左衛門尉家がどのような役割を担っていたのか、この問題も含めて引き続き調査をしたいと思えます。

### 多角形農業の一翼を担う施設

桜町小学校のすぐ西には、森永製菓株式会社中京工場があります。今は菓子の工場ですが、この場所は、かつて三河食品株式会社があった場所です。この会社は園芸農産物の加工を中心業務としていて、トマト加工品グリーンピース、大根加工品等を生産していました。日本デンマークの農業は園芸農業の発展による農業の複合化(多角形

農業の推進)が特徴の一つですが、貯蔵ができない蔬菜類が生産過剰になると農家の経営に損害が及びます。そこで、山崎延吉・岡田菊次郎・岡田庄太郎など碧海郡内の有力者、農業指導者を中心となり、農村振興策の一つとして昭和四年(一九二九)に三河食品株式会社が設立されました。しかし、ほとんど経営不振に陥り、他の企業に買収され第一トマト株式会社として再出発しましたが、

この会社も昭和十一年に森永資本に買収され、そして現在に至るのです。

### 安城の梨とイチジク栽培発祥の地

工場の周辺は現在マンションが立ち並び住宅地ですが、横山町一帯は明治三十年(一八九七)頃より梨栽培が始まり、安城梨の発祥の地となっていました。長野県泰阜村から移住してきた松坂啓蔵(日清・日露戦争の戦病死者を弔うための施設)から移設した二基の歌碑や明治の終わりから昭和初期まで、この地で操業していた安城山丸製糸場が寄付した献灯もあります。

大切な場所になっています。南明治八幡社は、大正八年(一九一九)に、碧南市から移転したという歴史があります。神社の移転には、岡田菊次郎・築山兵市を始め多くの人が尽力しました。境内には、手水鉢・狛犬等の石造物があります。梨栽培等で成功した松坂啓蔵とその兄弟を始め多くの人によって奉納されました。他に大心院(日清・日露戦争の戦病死者を弔うための施設)から移設した二基の歌碑や明治の終わりから昭和初期まで、この地で操業していた安城山丸製糸場が寄付した献灯もあります。



安城山丸製糸場(安城市歴史博物館蔵)



今回のコースの神社、公園内には多くの石碑があります。それぞれの石碑から歴史を感じましょう。一番新しい石碑は、安城公園の池の南にある「旧陸上競技場」跡の記念碑です。1996年以前にこのあたりに旧陸上競技場がありました。

### 南明治八幡社の歩み

森永製菓株式会社中京工場から安城神社、安城七ヶ神社を通って南明治八幡社に向かいます。南明治八幡社は、境内で四九の市(4と9のつく日)に開催が行われたり、かつて祭りの際に曳きまわした山車が保存されていたり、この地域の

### 安城神社周辺は、かつての…

安城市役所、安城公園を経由して桜町小学校に戻ります。公園の敷地内には、昭和四十七年に整備された文学の散歩道があります。文化の面で安城に関わりの深い方々の詩碑等が幾つかあります。その中でも、岩槻信治の詩碑に注目してください。多くの民謡の作詞・作曲家としても有名な彼は、愛知県立農事試験場 現在の愛知県農業総合試験場、安城市池浦町で、四〇年以上水稲の品種改良に従事し、多くの新品種を育成した安城の農業の立役者の一人です。

### 連携講座

## 安城歴博・中京大学連携講座

中京大学の講師陣による歴史講座を開催します。

[参加費] 各回200円(資料代含む)

[定員] 各回40名(先着順)

お申込みは電話(TEL:0566-77-6655)にて受付

「天下人文書考～信長・秀吉文書を中心に～」

1月14日(土) 14:00～

[講師] 播磨良紀氏(歴史文化学科教授)

申込 12月24日(土) 9:00～

「徳川御三家の形成と将軍家」

2月25日(土) 14:00～

[講師] 白根孝胤氏(歴史文化学科教授)

申込 2月4日(土) 9:00～

「板垣退助遭難事件と名言の謎」

3月18日(土) 14:00～

[講師] 中元崇智氏(歴史文化学科教授)

申込 2月25日(土) 9:00～

### 第12回松平シンポジウム

# 門徒久敷断絶す

— 三河一向一揆後の三河本願寺教団と家康・秀吉 —

今回は特別展「家康と一向一揆」に関連して、一揆後の処置から還往を含めた三河一向一揆の再検討とともに、豊臣期の宗教政策を併せて検討をおこなう予定です。

日時

令和5年2月26日(日) 13:00～17:00

場所

へきしんギャラクシープラザ  
(安城市文化センター) マツバホール

【参加費】500円(資料代) 【定員】200名

■コーディネーター

谷口 央 氏(東京都市大学教授)

■パネリスト

安藤 弥 氏(同朋大学教授)

平野 明夫 氏(國學院大学講師)

伊藤 真昭 氏(京都西山短期大学教授)

スケジュール

13:00～15:10 パネリストからの基調報告  
安藤 弥 氏「一向一揆後の三河本願寺教団」  
平野 明夫 氏「家康の真宗政策」  
伊藤 真昭 氏「秀吉の真宗政策」

— 休憩 —

15:40～16:55 討論会

申込み方法

イベント名、参加者様の氏名、郵便番号、住所、電話番号を明記し、往復はがきにて安城市歴史博物館までお送りください。(2月10日(金)必着)はがき1枚につき1名の申込受付となります。定員を超えた場合は抽選。定員に満たない場合は、2月14日(火)以降にお電話にて受付します。

### 令和4年度 博物館実習 報告

8月3日から11日のうちの6日間、学芸員資格取得を目指す5名の実習生を受け入れ、実習資料に触れることを重視した博物館実習を行いました。常設展の近世茶屋コーナーの展示替えを実習生自身が企画・実施する実習も行いましたので、ぜひご覧ください。

### 令和5年度 博物館実習生の募集

令和5年度博物館実習の実習生を募集します。実習は令和5年8月2日～8月10日(5日～7日は休み)を予定しています。安城市歴史博物館のホームページより申込書をダウンロードし、安城市歴史博物館受付までご持参ください。  
申込期間: 令和5年2月1日(水)～2月28日(火)

